

2022年3月期 第1四半期

決算資料

2021年8月5日

株式会社 TBS ホールディングス

2022年3月期 第1四半期決算

- ▶ 連結全体では増収増益。
- ▶ メディア・コンテンツ事業は、スポット広告市況が好調でTBSテレビを中心とした放送関連会社の業績が回復したことに加え、無料・有料動画配信事業も大幅に伸長し、増収増益。
- ▶ ライフスタイル事業も、緊急事態宣言再発出による店舗休業はあったものの、前年の感染症拡大の影響からの反動増や、通販事業の好調維持等により増収増益。

2022年3月期 通期業績予想の修正

- ▶ TBSテレビのスポット収入がコロナ禍以前の水準に回復したことに加えて、タイム単発収入や配信収入が堅調に推移する中、コストコントロールの継続などもあり、通期の業績（売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益）を上方修正。

- ▶ メディア・コンテンツ事業では、スポット広告市況の回復や配信事業の大幅伸長に加え、ライフスタイル事業も、前年の感染症拡大の影響からの反動増があり、連結全体で増収増益。

(単位：百万円)

連 結	2021年3月期 1Q(4-6月)	2022年3月期 1Q(4-6月)	前年差	増減率
売 上 高	69,118	86,415	17,297	25.0%
営 業 利 益	3,584	8,765	5,181	144.6%
経 常 利 益	8,130	12,488	4,357	53.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,749	8,139	3,390	71.4%

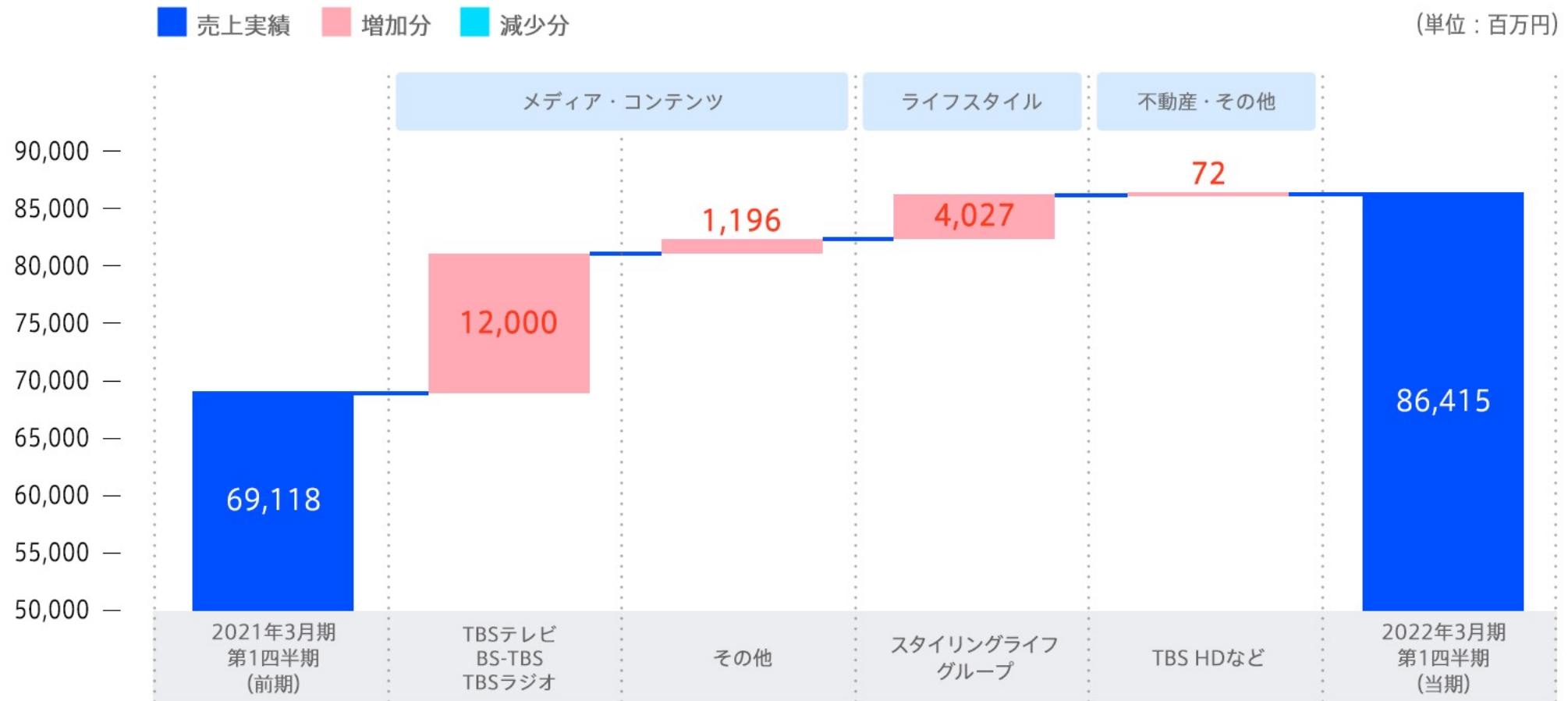
(単位：百万円)

	外部売上				営業利益又は損失			
	21年3月期 1Q (4-6月)	22年3月期 1Q (4-6月)	前年差	増減率	21年3月期 1Q (4-6月)	22年3月期 1Q (4-6月)	前年差	増減率
メディア・コンテンツ	55,032	68,230	13,197	24.0%	2,475	6,216	3,741	151.1%
ライフスタイル	10,207	14,234	4,027	39.5%	△904	533	1,438	—
不動産・その他	3,878	3,950	72	1.9%	2,014	2,014	△0	△0.0%
連結	69,118	86,415	17,297	25.0%	3,584	8,765	5,181	144.6%

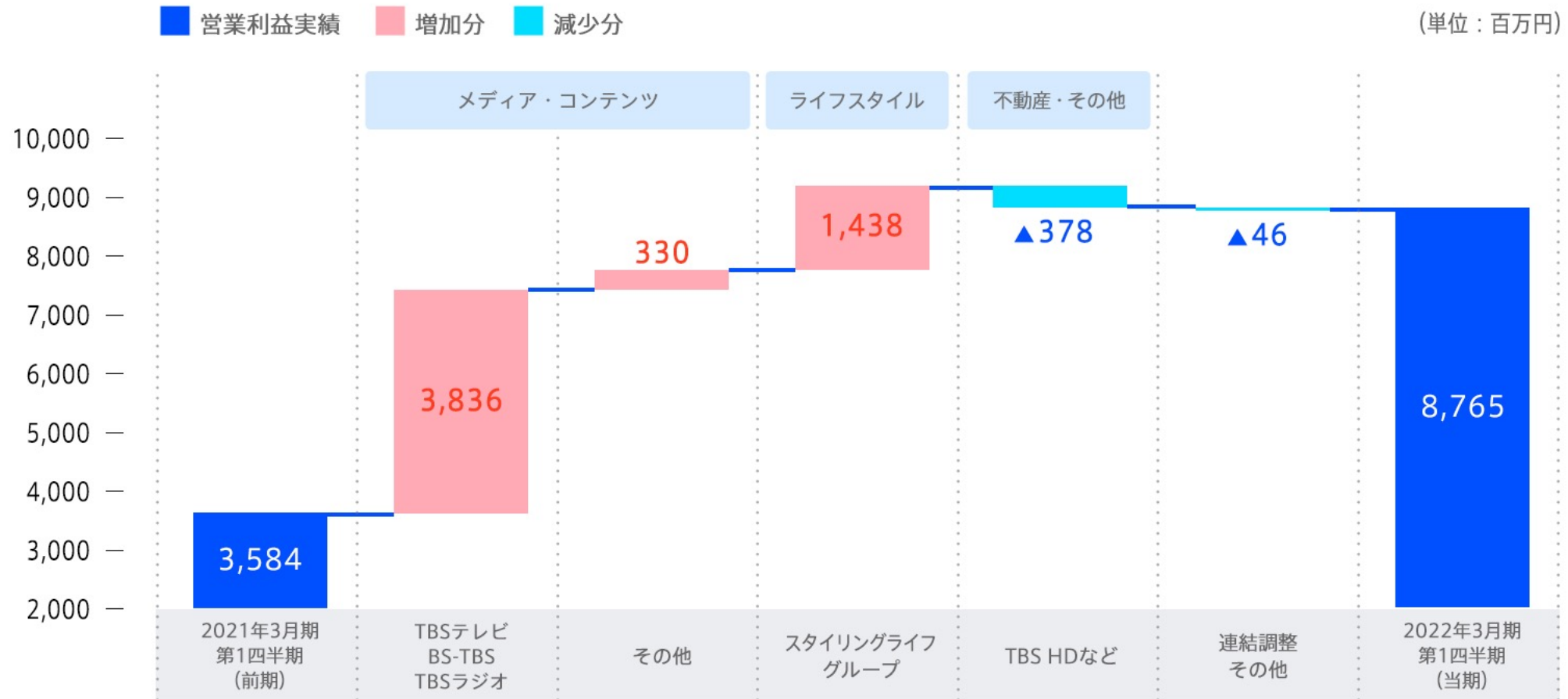
増減要因	外部売上		営業利益又は損失	
メディア・コンテンツ	TBSテレビ (+11,773) TCエンタ (+560) 日音 (△423)	TBSアクト (+746) スパークル (+382) グロウディア (△169)	TBSテレビ (+4,136) スパークル (+218) BS-TBS (△359) 日音 (△208)	TBSアクト (+572) TCエンタ (+154) グロウディア (△281)
ライフスタイル	SLG (+4,027)		SLG (+1,438)	
不動産・その他	TBS HD (+42)	緑山スタジオ (+50)	TBS HD (+51)	緑山スタジオ (+64)

連結セグメント別 売上高（外部売上）の増減要因

- ▶ メディア・コンテンツ事業の放送関連会社が、スポット広告市況好調により、大幅増収。ライフスタイル事業も休業店舗数の減少等で回復し、全体では大幅増収。



▶ メディア・コンテンツ事業は、前年好調だったショッピング事業では巣ごもり需要が落ち着いたが放送関連会社のスポット収入が回復。ライフスタイル事業も反動増となり、全体では大幅増益。



(単位：百万円)

連 結	2022年3月期 1Q(4-6月)	前年差
設備投資	1,693	49
減価償却費	3,196	△145

TBSテレビ	2022年3月期 1Q(4-6月)	前年差
設備投資	964	331
減価償却費	1,923	△105

(単位：百万円)

	2021年 3月末	2021年 6月末	比 較		2021年 3月末	2021年 6月末	比 較
流動 資産	190,053	186,427	△3,625	流動 負債	86,176	69,954	△16,221
				固定 負債	219,162	222,116	2,954
				負債 合計	305,338	292,071	△13,266
固定 資産	910,170	911,689	1,519	純資産 合計	794,884	806,045	11,160
				自己 資本	781,373	792,758	11,384
				非支配 株主持分	13,511	13,287	△223
資産 合計	1,100,223	1,098,117	△2,106	負債・ 純資産 合計	1,100,223	1,098,117	△2,106

四半期末有利子負債残高： 約276億円 (前期末比 増減なし)

※リース債務は除く

TBSテレビの業績

▶ スポット広告市況の回復等により、大幅な増収増益。

(単位：百万円)

TBSテレビ	2021年3月期 1Q(4-6月)	2022年3月期 1Q(4-6月)	前年差	増減率
売上高	41,665	53,764	12,099	29.0%
営業利益	2,691	6,689	3,998	148.6%
経常利益	3,900	7,439	3,539	90.7%
四半期純利益	2,092	5,650	3,558	170.1%

テレビ部門営業費用

番組原価 +4,932 代理店手数料 +1,564 (今期 6,710) NW費 +61

営業費用等

事業部門営業費用 +1,264

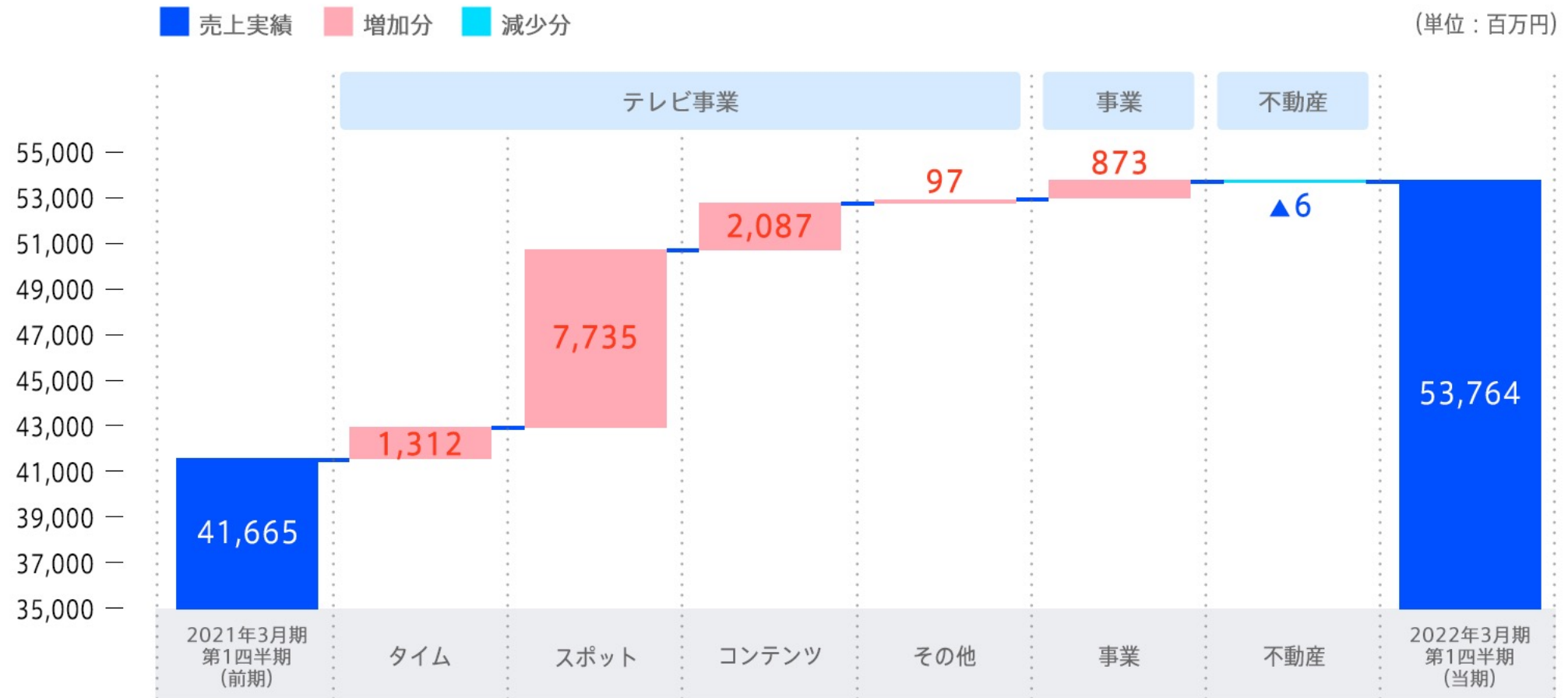
特別利益 (投資有価証券売却益) 1,081

特別損失 (感染症拡大に伴う損失) 31

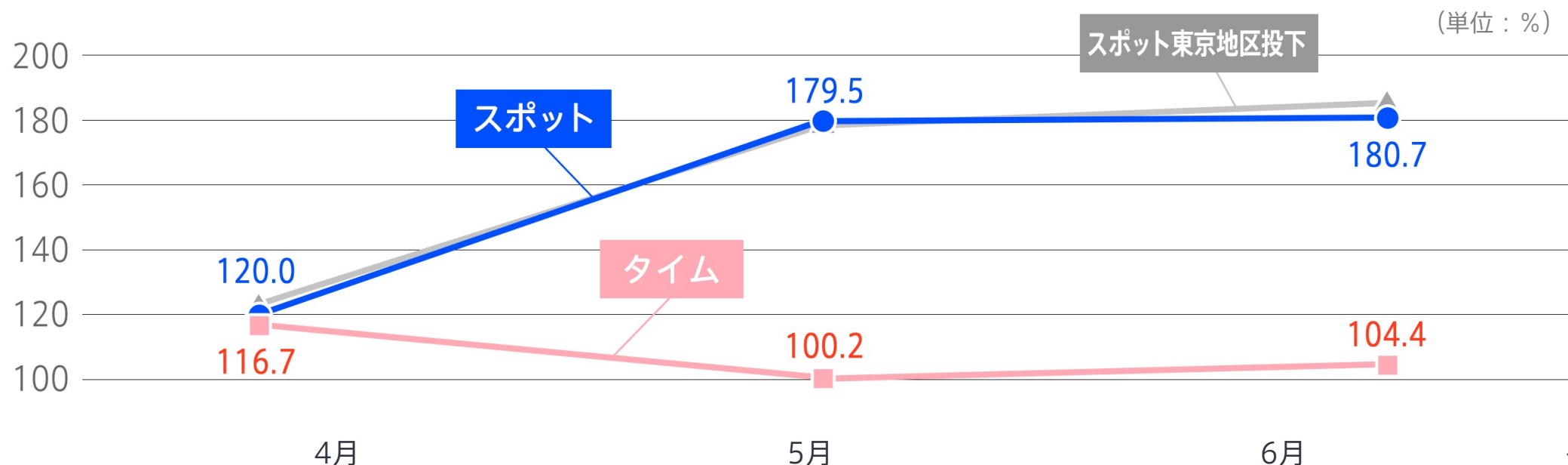
(単位：百万円)

	1Q (4-6月)	前年差
テレビ事業	47,862	11,233
(タイム)	20,277	1,312
(スポット)	21,866	7,735
(コンテンツ)	4,677	2,087
(その他)	1,041	97
事業	5,155	873
不動産	746	△6
収入合計	53,764	12,099

▶ スポット広告市況の回復や配信事業の伸長により、大幅な増収。



タイム・スポット収入 対前年比



	4月	5月	6月	平均
スポット 東京地区投下	122.3	178.5	185.1	155.8

	1Q (4-6月)	前年同期
タイム	106.9	89.8
スポット	154.7	66.6
TBS 5局シェア (推計)	20.4	20.5

(単位：%)

	1Q (4-6月)	増減率	シェア	前年同期	増減率	シェア
1	情報・通信・放送	88.0	17.2	情報・通信・放送	△30.1	14.2
2	酒・飲料	53.6	13.5	食品	△25.9	13.7
3	食品	11.0	9.8	酒・飲料	△29.9	13.6
4	化粧品・トイレタリー	47.4	7.5	医薬品	△2.6	10.4
5	医薬品	8.5	7.3	化粧品・トイレタリー	△38.3	7.9
6	外食・サービス	99.8	6.9	外食・サービス	△45.7	5.3
7	交通・レジャー	60.9	4.5	交通・レジャー	△55.0	4.3
8	金融	96.7	4.4	流通	△16.6	3.6
9	精密機器・事務機	90.6	4.1	金融	△57.1	3.5
10	エンターテインメント・趣味	147.7	4.0	精密機器・事務機	△19.8	3.3

※ 順位は金額順

- ▶ 第1四半期は、番組制作体制が大幅に制限された前年より増加。
通期予想は、東京五輪関連取材体制の縮小の影響等で期首予想より減少。

(単位：百万円)

	2021年3月期実績	2022年3月期実績	前年差
第1四半期	17,698	22,631	4,933
(地上波直接費)	12,868	17,636	4,768
(その他直接費及び間接費)	4,830	4,995	166
第2四半期	22,806	—	
第3四半期	23,983	—	
第4四半期	23,920	—	
通期累計	88,410	(見込み) 96,264	
	(地上波直接費)	76,576	
	(その他直接費および間接費)	19,688	

テレビ番組原価に含まれる主な費用

地上波直接費：番組制作費、放送権料、美術制作費、技術制作費
 その他直接費および間接費：地上波以外の直接費、減価償却費・社員人件費等の配賦原価

新ファミリーコア視聴率（4～49歳）

▶ 今期より「新ファミリーコア」として4～49歳をターゲットとした新指標を導入。

(※ []内は前年同期差 単位：%)

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	③1.6 [△0.5]	③3.3 [△1.1]	③3.3 [△1.0]	④1.1 [△0.4]
日本テレビ	①3.2	①5.7	①5.4	①2.6
テレビ朝日	④1.5	④2.7	④2.7	③1.2
テレビ東京	⑥0.6	⑥1.7	⑤1.5	⑥0.4
フジテレビ	②2.1	②3.9	②3.7	②1.7
NHK	⑤0.7	⑤1.8	⑤1.5	⑤0.5
PUT	11.0 [△3.5]	20.6 [△6.3]	19.6 [△6.0]	8.6 [△2.8]

(2021/3/29～2021/6/27：週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

- ▶ 無料・有料配信とも大幅増収。無料配信は、今期ドラマの1話平均再生回数がすべて200万回を超えるなど大変好調。

	前年同期比	
無料配信収入 (TVer・TBS FREE・GYAO!)	247%	} 在京5局で 1位
ユニークブラウザ数*	191%	
再生回数	188%	
4-6月期ドラマ3作品が史上初めて、全て200万回超（1話平均）を達成。		
「リコカツ」	238万回	(全局の歴代ドラマ2位)
「着飾る恋には理由があって」	219万回	
「ドラゴン桜」	209万回	
有料配信収入	184%	

* 端末ごとの重複のないユーザー数

韓国 大手エンタテインメントグループ CJ ENMと戦略的パートナーシップ協定で合意（6月）

世界的な大ヒットとなった「愛の不時着」を制作した同グループとTBSグループは、グローバル市場をターゲットとするドラマやバラエティ、映画等のコンテンツ開発・制作を、共同で推進。

- ▶ メディア事業は有料配信事業がテレビ部門への移管により減収となったが、前期は実施できなかった興行の復調などコロナ禍からの回復で、事業部門全体では増収。

(単位：百万円)

部 門	1Q (4-6月)	前年差	主な増減要因
事業 (催事・興行)	1,356	1,189	「スターズ・オン・アイス」や「刀剣乱舞」が健闘。コロナ禍からの反動増も緊急事態宣言再発出が重しに。
映画	187	13	「罪の声」や「糸」など旧作の有料配信やDVD販売が売上を牽引。コロナの影響続き、興行はやや苦戦。
アニメ	184	38	配信や海外番販等が引き続き堅調。6月公開の劇場版「レビュースタァライト」も牽引。
メディア事業	2,235	△756	CS事業がアロケーションの向上などにより好調も有料配信事業のテレビ部門への移管により減収。
海外事業	671	298	中国・韓国への番販環境の回復を受け増収。
ライセンス事業	449	64	「着飾る恋には理由があって」等ドラマ関連の番組商品が好調、ショッピングやDVD販売も堅調続く。
旧拡張領域事業	70	25	スマホゲームなどで増収。
計	5,155	873	

グループ会社の業績

▶ タイム収入の増加やイベント収入の回復で、増収増益。

(単位：百万円)

TBSラジオ	2021年3月期 1Q(4-6月)	2022年3月期 1Q(4-6月)	前年差
売上高	1,964	2,042	77
営業利益	67	126	59
経常利益	67	130	62
四半期純利益	36	83	47

- ▶ スポーツ単発番組の再開等で増収となったが、番組制作費増加の影響が大きく、営業利益以下は減益。

(単位：百万円)

BS-TBS	2021年3月期 1Q(4-6月)	2022年3月期 1Q(4-6月)	前年差
売上高	3,730	3,867	136
営業利益	959	600	△359
経常利益	970	611	△358
四半期純利益	669	400	△269

- ▶ 緊急事態宣言再発出による影響はあったが、休業店舗数は限定的であり、通信販売事業は引き続き好調。構造改革のための費用増により、最終損益は四半期純損失。

(単位：百万円)

スタイリングライフグループ (連結)	2021年3月期 1Q(4-6月)	2022年3月期 1Q(4-6月)	前年差
売上高	10,213	14,235	4,021
営業利益 又は損失 (△)	△739	699	1,438
経常利益 又は損失 (△)	△749	678	1,428
四半期純利益 又は損失 (△)	△1,050	△515	535

業績予想の修正

- ▶ 第2四半期においても、スポット収入の好調維持やタイム単発収入の増加、コストコントロールの継続等が見込まれるため、通期の業績予想を上方修正。

(単位：百万円)

TBSテレビ	前年実績 (2021年3月期)	前回予想 (5月14日発表)	修正予想	増減
売上高	189,615	205,601	210,400	4,799
営業利益	2,449	4,171	8,600	4,429
経常利益	4,736	6,173	10,700	4,527
当期純利益	21,793	4,105	7,700	3,595

	第1四半期 実績	通期予想		
タイム	+6.9%	+2.4%	→	+3.5%
スポット	+54.7%	+11.6%	→	+16.0%
番組原価	22,631	97,415	→	96,264

▶ TBSテレビの業績予想修正に伴って、連結の業績予想も上方修正。

(単位：百万円)

連 結	前年実績 (2021年3月期)	前回予想 (5月14日発表)	修正予想	増減
売 上 高	325,682	342,700	346,100	3,400
営 業 利 益	10,841	11,500	16,000	4,500
経 常 利 益	19,233	19,500	25,200	5,700
親会社株主に帰属する 当期純利益	28,072	12,200	16,100	3,900

補足資料

今秋スタート!

「THE TIME,」

(ザ タイム)

毎週月曜日～金曜日

あさ 5:20～8:00

司会

安住紳一郎 (TBSアナウンサー) / 月曜日～木曜日

香川照之 / 金曜日



メディア・コンテンツ/ 不動産・その他 (1社)

(株) TBSテレビ

メディア・コンテンツ (11社)

(株) TBSラジオ

(株) BS-TBS

(株) TBSスパークル

(株) TBSグローディア

(株) CS-TBS

(株) Seven Arcs

TCエンタテインメント(株)

TBS International, Inc.

(株) TBSメディア総合研究所

(株) 日音

(株) TBS ACT

2021年4月1日に以下の会社を吸収合併

(株)赤坂グラフィックスアート

(株)アックス

OXYBOT(株)

(株)ティ・エル・シー

(株) TBSテックス

(株)東通

ライフスタイル(3社)

(株) スタイルングライフ・ホールディングス 他2社

不動産・その他(5社)

赤坂熱供給(株)

(株) TBS企画

(株) TBSサンワーク

(株) TBSヘクサ

(株) 緑山スタジオ・シティ

持分法適用(3社)

(株) プレースホルダ

(株) プレミアム・プラットフォーム・ジャパン

(株) WOWOW

(※ []内は前年同期差 単位：%)

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	④ 2.9 [△0.8]	④ 4.5 [△1.1]	④ 4.5 [△1.0]	④ 2.5 [△0.7]
日本テレビ	①4.0	①6.3	①6.0	①3.4
テレビ朝日	②3.8	③5.8	②5.8	②3.3
テレビ東京	⑥1.4	⑥3.5	⑥3.1	⑥0.9
フジテレビ	⑤2.8	⑤4.4	⑤4.2	⑤2.4
NHK	③3.2	②6.2	③5.2	③2.6
PUT	21.6 [△3.3]	35.7 [△5.0]	33.5 [△4.9]	18.3 [△2.7]

(2021/3/29~2021/6/27 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている将来の当社業績に関する見通しほか全ての内容は、本資料作成時点の当社の判断に基づくものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経済情勢、市場動向、経営環境などの変化により、記載事項と異なる可能性があることに十分ご留意下さい。

◇お問い合わせ先

〒107-8006

東京都港区赤坂5丁目3番6号

株式会社TBSホールディングス 財務戦略局 IR推進部

Tel : 03-3746-1111 (代表) HP : <http://www.tbsholdings.co.jp/ir/>